



TITLE:

# <VI>コミュニティ・ネットワーク 形成支援

AUTHOR(S):

松下, 佳代

---

CITATION:

松下, 佳代. <VI>コミュニティ・ネットワーク形成支援. CPEHE Annual Report 2020, 2019: 39-40

ISSUE DATE:

2020-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/251025>

RIGHT:

## VI. コミュニティ・ネットワーク形成支援

大学教育に関する改革や改善を進めていく際には、国内外の新しい施策や学術的な動向、それに伴う他の大学や学部の実践的な取り組みについて情報収集する必要があります。その上で、必要な事項を、京都大学全体や各部局の教育改革・改善の取り組みに反映させなければなりません。

本センターでは、このような情報収集の機会を作り、そこからコミュニティ・ネットワーク形成を図るべく、「あさがおメーリングリスト」「大学教育研究フォーラム」の2つの仕組みを作っています。

### 1. あさがおメーリングリスト

あさがおメーリングリストは、本センターが、2003年より17年にわたって提供しているサービスです。以下の4つの機能からなります。

- メーリングリストアーカイブ
- メール投稿フォーム
- ユーザー登録・登録解除フォーム
- メールアドレス変更フォーム

本センターや京都大学からの大学教育に関する案内が全国の関係者に配信されるとともに、登録ユーザーからも各種イベント等の案内が配信されるので、今どのような施策や取り組みに全国の関心が向けられているかという動向を把握することができます。

このサービスは長らく大学生協事業連合に委託してきましたが、生協が今年度いっぱいでは本事業を終了することになり、それに伴って、9月2日をもって旧システムを終了し、9月4日より新システムの運用を始めました。新システムとして採用したのは、メール配信サービスblastmailです。投稿先等、多少の変化はありますが、基本的にはこれまで通りご利用いただけるようになっています。また、旧システムのアーカイブは、センターのウェブサイト(<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/asagao/>)からダウンロードできるようにしました。

2020年1月末現在で、ユーザー登録数は5,997名(2015年3,429名、2016年4,192名、2017年4,836名、2018年5,395名)、投稿・配信数は1,243件(2015年621件、2016年944件、2017年975件、2018年1,270件)で、ともにほぼ年々増加傾向にあります。全国の大学教育改革・改善に関わる多くの関係者は、あさがおメーリングリストに登録しています。

- あさがおメーリングリスト:<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/asagao/>

### 2. 大学教育研究フォーラム

大学教育研究フォーラムは、本センターが1994年の設立以来開催してきた、大学教育改革・改善に関する施策や実践が報告される国内最大級のフォーラムです。2019年度で第26回を迎えます。

大学教育研究フォーラムは、①特別講演、②シンポジウム、③学術セミナー、④個人研究発表(口頭発表・ポスター発表)、⑤参加者企画セッションを基本プログラムとしており、年によって小さな追加・変更を行っています。

#### (1) 第25回大学教育研究フォーラムの概要

2020年1月現在、2019年度のフォーラムはまだ開催されていませんので、ここでは2018年度の第25回大学教育研究フォーラムの実績をご報告します。

2018年度は、2019年3月23-24日に、以下のプログラムで開催しました(敬称略)。事情により、例年の第1日と第2日のプログラムを入れ替え、第2日に全体会(特別講演、シンポジウム等)を行いました。また、例年行っていた学術セミナーに代えて、パネルディスカッションを持ちました。参加者は776名でした。



## ①特別講演

「教育を捨てて教育に戻れ！ー大学の授業研究からトランジションをにらんだ生徒学生の学びと成長へー」

溝上 慎一(学校法人桐蔭学園理事長代理、トランジションセンター所長・教授)

## ②シンポジウム「高校から大学、大学から大学院、大学から社会へのトランジション」

「高大・大大・大社接続について」

北野 正雄(京都大学理事・副学長)

「大学から社会へのトランジションー『自分から動く』『考える』『人と連携する』力を高めるー」

高橋 俊之(立教大学経営学部特任准教授)

「トランジションをどう理解し、学校教育の中に位置づけるか」

山田 剛史(京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

## ④個人研究発表(口頭発表117件・ポスター発表115件、計232件) ※2015年度は174件、2016年度は195件、2017年度は186件

## ⑤参加者企画セッション(計13件) ※2015年度は11件、2016年度は14件、2017年度は14件

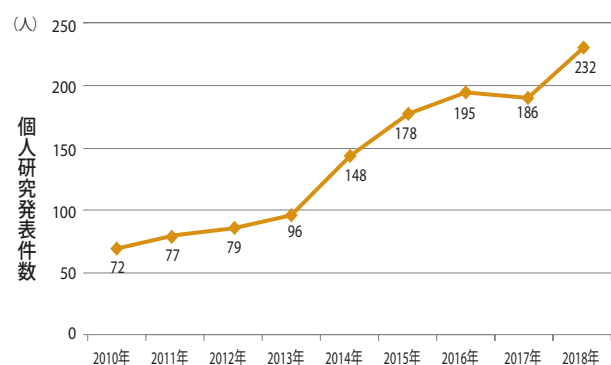
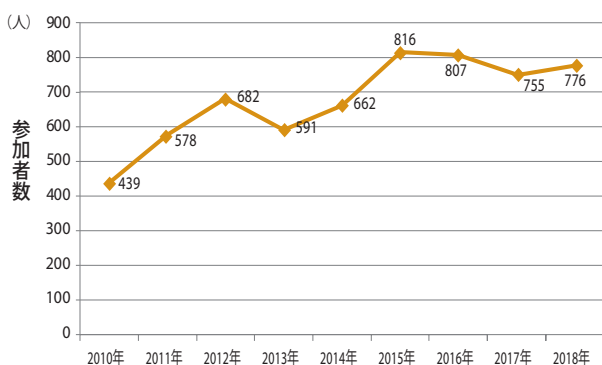
ある特定のテーマでの研究・実践交流を促す目的で、一般参加者から募集するセッションとなっています。2018年度は「汎用的能力は評価できるか」「教員と学生の学びと成長を考える」「学習支援担当者の能力開発の現状と課題」などが企画されました。

## (2)成果と課題

2010年度以来、フォーラムの個人研究発表件数はほぼ増加傾向にあります。2017年度に初めて前年度を下回ったものの、2018年度は大幅な増加となりました。一方、参加者数は、ここ数年やや減少傾向にありましたが、こちらも2018年度は小幅ながら増加に転じました。いずれにしても、参加者数に比べて個人研究発表件数の伸びが大きく、単に参加するだけでなく発表も行う熱心な参加者が多いのが、本フォーラムの特徴といえます。

主催者側では、毎年、事後アンケート結果にもとづき、プログラムや運営方法の改善を重ねてきていますが、さらに魅力的なフォーラムにしていきたいと思っています。

●大学教育研究フォーラム:<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/forum/>



参加者数・個人研究発表件数の推移(2010-2018年度)

(松下 佳代)